



ダンス(新琴似小ミニ児童会館)

子どもがさまざまなことにチャレンジしながら成長していくことの大切さを、多くの人に知ってもらうために開かれた「子どもの輝きフェスティバル」(平成二十一年十一月十五日)。会場では子どもたちが、ダンスや人形をあやつって物語を演じる「人形浄瑠璃」の発表や、児童会館の子どもと地域の人たちが協力して行っているお祭りについての報告などがありました。

また、竹トンボやコマなどの昔遊びを体験するコーナーや、子どもの悩みやいじめなどの相談を受け付ける「子どもアシストセンター」の出張相談コーナーなども開かれました。

このフェスティバルの様子を子どもレポーターのコメントを交えてご紹介します。



子どもレポーター

藤田 凌也くん(小5)

平成 21 年度子ども議会子ども議員の藤田くんがフェスティバルに参加して、会場の様子についてコメントを寄せてくれました。

苗穂はるにれ児童会館の発表



発表を聞いて、
ぼくも児童会館で
活動してみたい
と思いました。

人形浄瑠璃の発表



三人一組になって一
つの人形を動かしてい
ました。息がピッタリ
合っていて、動きがき
れいでした。

子どもアシストセンター出張相談



今回、ぼくには悩みは
なかったけど、子ども
の権利救済委員さん
といろいろなことを話
すことができました。

MEMO
子どもアシストセンター相談電話 0120-66-3783 (子ども専用フリーダイヤル)
受付 月～金 10:00～20:00、土 10:00～15:00

昔遊びの体験 (竹返しの様子)



会場でインタビューす
ると「竹返しが面白
かった。初めてやって
みてよかった」という
答えがありました。

MEMO
竹返し：両手に持った竹の板を、手をはなして持ちかえたり、放り投げて
手の甲で受けたりする遊び。

全体の感想

楽しいコーナーや、実際に体験ができるコーナーがありました。これからも、いろいろな活動をしたり、イベントに参加したりしたいと思いました。



札幌市では、四年生
六十三人が、地域の人や北海
道大学の学生と協力して「ほ
ろきたミニミニ雪まつり」の会
場にかざるキャンドル作りに
挑戦しました。

最初に作り方について説明
を聞き、地域の人から「和紙を
使うとききれいな花が描けるよ」
などのアドバイスももらいな
が、使用済みの透明なペットボ
トルに、花や虹、星などの模様
を描いていき、キャンドルが完
成しました。

成—作業を進めながら、好きな
ゲームや学生生活の話題でも盛
り上がり、交流が深まりました。
完成したキャンドルには、一
月三十日から三日間、まつり
会場で火がともされました。

幌北小学校では、四年生
六十三人が、地域の人や北海
道大学の学生と協力して「ほ
ろきたミニミニ雪まつり」の会
場にかざるキャンドル作りに
挑戦しました。

最初に作り方について説明
を聞き、地域の人から「和紙を
使うとききれいな花が描けるよ」
などのアドバイスももらいな
が、使用済みの透明なペットボ
トルに、花や虹、星などの模様
を描いていき、キャンドルが完
成しました。



▲キャンドル作りの様子

稲積中学校では、二月九
日、生徒会を中心とする生
徒約九十人が、隣のいなづ
み幼稚園の庭に雪像を作り、
園児にプレゼントしました。

約一時間半の作業でクマの
キャラクターや、すべり台な
どが完成。生徒会長の中村
春菜さん(中二)は「おすす
めは五か所から降りることが
できるすべり台。楽しみにし
てくれている園児たちに、た
くさん遊んでもらえるとう
れい입니다。」と話してくれま
した。



▲手作りの雪像と稲積中学校のみなさん



▲雪像で遊ぶいなづみ幼稚園の子どもたち

雪像作りの翌日、いなづ
み幼稚園の子どもたちは、
プレゼントしてもらった雪
像で、朝から雪遊びを楽し
みました。五本のすべり台
を順番にすべったり、雪像
によじ上ったりして、元気
いっぱいの子どもたちは、
すべり台の上から、となり
にある稲積中学校の校舎に
向かって、「お兄さん、お姉
さん、ありがとう」とお礼の
声をかけていました。